

教育目標 「六日町だいすき にこにこ わくわく ぐんぐん」

地
学
校

南魚沼市立六日町小学校

うおの川

学校だより

第655号

令和7年1月23日（木）発行



「地学校」とは地酒と同様に地元の学校の意味です。★学校だよりは学校HP（上記のQRコード）でも御覧いただけます。

あけましておめでとうございます。

保護者・地域の皆様のご理解・ご支援に感謝するとともに、今後ともよろしく願いいたします。さて、始業式に、3つの話をしました。簡単に紹介します。

1 新たな挑戦を始める

大きな挑戦を始めるわけではありません。今までやったことがないけど、ちょっとやれそうなことに、挑戦してほしいのです。ちょっとした挑戦と失敗・成功を繰り返して確実に成長してほしいのです。ちょうど赤ちゃんが歩くときと同じように。

2 新しい友達をつくる

仲の良い友達は何人いるでしょうか。同じ学級・学年でも、あまり話をしたことがない友達はいませんか。4月には中学校に入学する6年生、学級替えのある2・4年生など、新しい友達をつくるチャンスです。もちろん1・3・5年生も同じです。

3 自分で自分を変える

自分を見つめ直し、殻を破り脱皮するように、古い考え方や誤った考え方を捨てて、新たなよりよい考え方を手に入れましょう。新しいやり方や言葉がけを学び、変化を受け入れ、自分自身を成長をさせましょう。

子供たちの内なる力を信じ、確実に少しずつ成長する1年になるようにしたいと考えています。

<2月の予定>

3日（月）六日町中学校入学説明（保護者のみ）

元気アップ週間（～9日）

職員会議（ランドデザイン等）

4日（火）4年アルペンスキー授業

6年欠之上クロカンスキー授業

5日（水）3年アルペンスキー授業

6年薬物乱用防止予防教室

委員会（4年生見学）

ノーメディアデー

学校預り金振替日

6日（木）親善スキー大会激励会

前日準備

全校5限後下校

7日（金）親善スキー大会

全校5限後下校

10日（月）職員会議（各領域等部会）

12日（水）四ツ葉朝会、委員会

PTA 運営委員会

13日（木）4年アルペンスキー授業

5年欠之上クロカンスキー授業

「ありがとうの木」取組（～3／7）

14日（金）新入生半日体験入学

17日（月）研究推進部会、生活指導部会

18日（火）4年給食訪問、全校5限後下校

職員会議

19日（水）3年アルペンスキー授業

5年欠之上クロカンスキー授業

21日（金）学習参観・学年懇談会

6年生中学校制服引き渡し

23日（日）中越学童クロカンスキー大会

26日（水）5年金融に関する出前授業

27日（木）四ツ葉班活動

28日（金）四ツ葉会総会、町内子供会

PTA地域育成委員会引継会



第74回社会を明るくする運動」作文コンテスト（その2）

新潟県保護司会連合会長賞と新潟県更生保護女性連盟会長賞を受賞しました。前回は、連合会長賞の作文を紹介しました。今回は、女性連盟会長賞を紹介します。

One for all, All for one.

6年生

私は、小学校四年生から野球を習っています。普段はファーストを守ることが多いですが、時々試合でピッチャーをすることがあります。その時、打たれたら負けてしまう、自分がくずれたらチームに迷惑がかかってしまう、ピンチになったらどうしよう、など不安な気持ちが頭をよぎります。でも、内野や外野のみんなから、「打たれていいからね」「キャッチャーが止めてくれるから大丈夫だよ」などと言われると、気持ちが楽になります。打たれても守ってくれる人が自分の後ろにたくさんいると思うと、思いっきり投げられます。実際、打たれたけど、チームプレーでピンチをしのぐことがたくさんありました。

また、ベンチの監督やコーチ、試合に出ていないチームメイトからの応援や声かけもとても心強いです。点を取られたときでも「ナイスピッチ」と言ってもらえて、次の回もなんとか投げ切ることができました。不安を感じているときや自信がもてないときでも、支えてくれて、応援してくれる人がいるとがんばることができます。だから、私も自分以外のチームメイトがピンチのときは積極的に声をかけるようにして、支え合って試合や練習をしていきます。おたがいがんばり合うことで、つらい練習や、厳しい試合展開でも乗りこえることができます。「One for all, All for one.」はラグビーでよく使われる言葉ですが、私は野球で大変なときこの言葉がよく頭にうかびます。

そして、このことは、社会全体についてもいえると思います。例えば、「保護司」という職業です。学校の授業で保護司という職業を初めて知り、自分で調べてみました。保護司は、犯罪や非行をしてしまった人の社会復帰を支える職業です。罪や間違いを犯してしまった人の気持ちに寄りそうことで、その人は心を入れかえて、その後の生活を送ることができるようになるそうです。

罪を犯してしまった人の気持ちは、想像することしかできませんが、これからの生活や人生のことを考えて、不安になっていると思います。そうしたときに、身近で親身になって支えてくれる人がいたらどうでしょう。マウンドに上がった私の気持ちが軽くなったように、応援してくれる人の存在はとても心強いと思います。

確かに、今の社会にも保護司はいますが、犯罪はなくなっているとはいえません。罪を犯した本人の気持ちや行動が変わらず、また罪を犯してしまうこともあるからです。何度も逮捕や補導をされている人を、ニュースで見たことがあります。

しかし、保護司がいないと、罪を犯してしまった人は、どうやって社会復帰すればいいかわからないし、わからないまま社会復帰しても不安や孤独を感じてしまうかもしれません。だから保護司という存在は世の中にとても必要だと思うし、だれかを支えられることはとてもかっこいいです。

世の中の人みんなが保護司にはなれませんが、保護司のような気持ちになることはできます。「One for all, All for one.」の精神で、おたがいが支え合える世の中になっていけばいいなと思います。